

# 渡航者医療センター

Travellers' Medical Center

contents ・ 教授紹介 ・ 診療科紹介

海外渡航者の健康を  
トータルサポート  
予防と対策で安心の海外渡航



教授  
**濱田 篤郎**

ほっと!  
Line

ほっと! Line

診療科シリーズ 渡航者医療センター 2011年6月発行 発行/東京医科大学病院 渡航者医療センター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 編集/ビー・ピー・シー株式会社

で感染して帰国後に発症することがあるために、開発途上国に渡航される方に対して主に感染症のリスクを避ける方法をアドバイスしています。  
当センター受診者の多くは渡航前の健康診断、ワクチン接種、マラリア予防薬の処方が必要とされる方ですが、帰国後に発熱や下痢などの症状がある方もいらっしゃいます。  
日本に持ち込まれる熱帯感染症の代表的なものはマラリアやデング熱ですが、マラリア

アは治療が遅れると命が脅かされることがあるので、渡航者自身も知識を習得しておく必要があります。  
私の診療では、渡航の際に必要なワクチンやマラリア予防薬などを図や表で分かりやすく説明し、タイ留学経験やベトナム赴任経験を生かしたわかりやすいアドバイスを心がけています。短期・長期を問わず、海外での滞在を安心して過ごしていただけるようお手伝いします。



水野泰孝 講師

子どもたちを連れて  
元気に海外渡航するために  
福島慎二 助教

観光や海外赴任などで海外に子どもを連れて行くご家族が多くなりました。大人が海外に行くのと同様、子どもが海外に行く場合にもきちんと準備することをお勧めします。  
当センターには常に内科医、小児科医がいますので、海外に渡航する際の予防接種を、親子ともに接種することが可能であり、その他、渡航に関

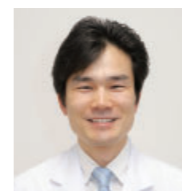


福島慎二 助教

わる様々な相談にもものごとができます。  
また、海外へ渡航する前に時間があります。そのため、親子と一緒に受診できる当センターは理想的な環境といえます。  
私の診療では、海外に渡航する子どもがメインとなりますが、親子ともに「当センターに来て良かった。また来よう。」と思ってもらえるよう、努力しています。



**福島 慎二 助教**  
1999年産業医科大学医学部卒業後、同大病院小児科へ入局。2003年横浜労災病院に転勤し、併設の海外勤務健康管理センターにて勤務。2010年から現職。渡航医学をメインとした当センターで小児科医として子どもたちの健康をサポートする。



**水野 泰孝 講師**  
1994年昭和大学医学部卒業後、東京慈恵会医科大学小児科学講座入局。2003年同大学院熱帯医学講座在学中にタイ王国マヒドン大学熱帯医学部留学。2004年国立国際医療センター、2007年外務省出向による在ベトナム日本国大使館勤務などを経て、2010年現職。



**増山 茂 兼任教授**  
1948年、富山県生まれ。1982年千葉大学医学部卒業後、了徳寺大学健康科学部学部長・同学長を経て2010年より現職。呼吸器内科専門で、高山病をはじめとした高所医学全般に詳しい。東日本大震災では避難所での低体温症などを危惧し、いち早く声を上げた。

「海外感染症流行情報」は、東京医科大学病院のホームページでご覧いただけます。▶▶▶ <http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/tokou/topics.html>

## 渡航者医療センター

マラリアなどの熱帯感染症や高山病、旅行者血栓症といった渡航時の疾病の予防と対策を提供します。

# 海外特有の感染症や疾患に対応し、適切な情報とアドバイスを提供

渡航者医療センターでは、出国前から帰国後まで、海外渡航者の健康をトータルにサポートする医療を提供します。出国前は渡航者の健康状態に応じた生活指導や予防接種を行い、渡航中の健康問題の発生を予防します。持病のある方については現地医療機関の紹介もいたします。渡航中は電子メールによる医療相談などで、現地で起こった健康問題に対処します。また、帰国後に体調不良を起こした渡航者については、熱帯感染症を中心にした診療を行います。

当センターが扱う健康問題は、感染症だけでなく高山病や生活習慣病など幅広い範囲に及びます。また年齢的には小児から高齢者までを対象にしており、全ての世代の人々が、海外で健康な生活を送っていただくための診療をモットーにしています。



増山茂 兼任教授

### 高山から砂漠まで 極限環境を支える医療 増山茂 兼任教授

渡航の中でも高地や砂漠地帯といった極限の環境に身を置く場合、健康障害を受ける確率は高くなります。高い場所は気圧が低いので低酸素状態から高山病に陥りやすく、また有害紫外線も強くなります。寒い場所は凍傷や低体温症の危険度が上がり

ます。それらの地域に渡航予定の方には低酸素や寒冷、乾燥といった特殊な環境下で起こりえる障害について説明し、健康面でトラブルが起こらないようサポートしています。日本人は中高年になつてから山登りを始めたり、海外トレッキングに行く方が多いので、健康管理には十分注意しないとけません。疾病の予防はもちろん、体力作りもしっかり行つて渡航に臨む必

要があります。

登山者・高山病外来は渡航者の活動領域を物理的、精神的にも広げていくお手伝いをしていると考えています。

モットーはどんな疾病を抱えている方にも「止めたほうがいい」とは言わないこと。たとえば登山なら頂上までは無理でもここまでなら行けるとか、今の状態では難しいが体をこつ改善すれば来年は行けますよと、チャレンジをサポートしています。人にはそれぞれの「エベレスト」があるので、その可能な領域を広げてあげるのが私の仕事だと思ひ、日々取り組んでいます。

### 海外赴任経験を生かした 熱帯感染症の専門診療

水野泰孝 講師

開発途上国の多くは熱帯・亜熱帯に属し、その地域に蔓延する感染症を熱帯感染症と呼んでいます。日本では発生のない熱帯感染症でも、現地

渡航者医療センター

## 濱田 篤郎 教授

渡航医学、熱帯感染症の第一人者として知られる濱田篤郎教授は、海外渡航にもなう健康問題の予防や治療を提供する渡航者医療センターを2010年秋に開設。日本社会に渡航医学を浸透させるための啓発活動にも力を入れています。

## 海

外赴任や留学、観光などで様々な国に出かける日本人が増えています。とくに近年は仕事やボランティア活動などで衛生状態のよくない地域や過酷な環境の地域に滞在する人も少なくありません。日本人の海外渡航者は年間1500万人を超していますが、総じて健康面の危機管理に甘いのが現状といえます。開発途上国に1カ月間滞在すると、約半数の渡航者が何らかの健康問題を起こします。下痢やカゼなど実際の病気にかかる頻度は約30%です。このように渡航中は健康問題が頻繁に起こりますが、適切な予防対策をとっていれば、それを回避することができます。こうした対策を提供するのが渡航者医療センターの役割です。

私たちは渡航者の皆さんに、世界各地の感染症情報や現地医療機関の情報を提供するとともに、渡航先やライフスタイルに応じた予防接種や健康指導を行っています。予防接種に関しては、国内で未承認の重要なワクチンも輸入し、希望者に接種しています。また、最近では持病のある方が海外渡航をするケースも多く、渡航先での持病管理の指導や英文診断書の作成なども行います。

渡航者医療センターは日本の大学病院に初めて設置された渡航医学の専門診療科です。この医学を一般市民はもちろん医療関係者にも浸透させるため、一層努力していきたいと考えています。



濱田 篤郎 教授 1981年東京慈恵会医科大学卒業後、米国Case Western Reserve大学へ留学。帰国後、東京慈恵会医科大学で熱帯医学教室講師を経て、2004年海外勤務健康センターの所長代理。2010年7月より現職。渡航医学に精通し、海外渡航者の健康をトータルサポートする。

# 海外渡航者の健康をトータルサポート 予防と対策で安心の海外渡航